

# 炊き出しボランティア通信 vol6 1

2012, 6月

**炊きだし** 6月9日(土) 9:00 元寺小路教会に集合・準備。12:00 炊き出し

雨。お出でになった方42名。同好会からのボランティアは新人の1年生3名と2年生3名参加しました。衣類提供は来週の萌友食事会ですることになりました。公園の中はシートを敷ける状態ではありませんでした。まずテントを組み立てて、並ぶ場所や食べる場所づくりをしました。集まった常連のおじさんたちは、職歴を活かして(?)手早く器用に手伝ってくれました。炊き出し参加がはじめての1年生たちには、ビニールシートでの売り子など十分な経験がさせられなくて気の毒でしたが、風雨や雪の中の炊き出しなども、経験です。それにまた次の参加の機会があります。



お菓子詰めです



手馴れたおむすびです?



「全てベチョベチョ」



「先輩、今日って大変ですねえ」

- 2回目で仕事がスムーズにできました。私は1年生とやっていたのですが、1年生がちゃんとやっていてよかったです。人数は少なかったですが、それぞれ頑張っていたと思います。次回は天気がいいといい!! 皆参加できるといい!! (2年)
- 朝から雨が降っていたけれど、教会で豚汁具材を切ったりおにぎりつくったりとかたくさん手伝ったのでよかったです。1年生とは初めての炊き出しでしたが、協力してやれました。(2年)
- 久々の炊き出しボランティアで少し緊張しました。雨の中で大変だったのですが、教会の中でやっていけばよかったなど、改善していった方がよいと思うことがあったので、自分の意見も言ってゆけたらと思いました。(2年)
- 今回が初めての炊き出しボランティアだったので、最初は何をすべきなのか全く分かりませんでしたが、先生や先輩たちにいろいろなことを教えてもらいながらテキパキ動くことができました。今日できなかったことを次回しっかり活動したいです。(1年)



ああー、大変だった…。

献品： 小学校から今回もたくさんの献品を預かりました。ありがとうございました。

## **夜回り** 6月6日(水)20:20~21:10

今月も会議が長引き、いったん帰宅の暇なし。学校でカップ麺とレトルトご飯を食べて行った。

(以下は、Vol.60と同じ内容。ファイル整理の際に混雑したか。一編輯者)

国際センター裏ベンチ。いつもの方がやすんでいた。1年通っていて顔を見たこともない。Hさんの話では、まだ若い30代の人。家はあるが大借金をしたため家族から返済終わるまで帰ってくるな、と追い出され、もうすぐそれが終わるとのこと。話が本当ならば、それがいい。もうすぐ梅雨が来る。それにしても、この周辺の明るさに不審感をもった。西公園もそうだ。いつも半分以上真っ暗な中を電灯頼りに歩いていたのに、やけに明るい。ライトが増えた。世間は節電で騒いでいるのに、逆行している気もした。何かあるのだろうか、分からない。

センター表の公園ベンチ。「おじさんどこからでしたか？」と声をかけた。「…岩手」岩手のどこ？ 自分も岩手の出ですよ、と言いそうになって堪えた。聴かれたくないこともある。かわりに、味噌スープをさし上げながらまじまじと顔をながめた。私の郷里にいる顔だった。「おじさん内陸でしょ？」「ハイ」これだけ言った。

大橋下は長靴のいる季節に入った。草丈が伸び、カエルの声が響きわたる。ヘビが出てもおかしくない。「Kuさん。」呼ぶと、ゴミ山の向こうで帽子がゆらめいた。タバコの火が赤く燃えている。何か言いながら近づいてきた。よく聞き取れない。「いやあセンセ、そんないいですから。いつもお世話様ですセンセ」何を話しても要領を得ない。味噌スープ？ いらない。おむすび、卵？ 他の人にやってくれ。なぜ。――要するに、Kuさんは酔っぱらっていた。「ありがとうございました。」ぺこんとお辞儀していた。早々に切り上げた。

西公園。ライトが煌々としているベンチに見かけない人が寝ていた。「こんばんは、夜回りです。味噌スープいかがですか？」中年の男性顔を上げて、しばらくじっと見つめられた。間。「いりません。」信頼をとれなかった。――話しかけたとき、自分はどんな顔をしていたんだろう？ 疲れた顔か？――悔しい。

夜回りは毎月第2水曜日におこなっています。炊き出しはその週の土曜日です。いずれも、カトリック正義と平和仙台協議会（代表W）がおこなっている活動に、ボランティアで参加させていただいています。興味のある方は、ご連絡いただいたら、ご一緒いたします。

文責 高橋 覚